

イベントレポート
デザインとアートの街六本木、東京ミッドタウンのデザインイベント
「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」

日本のデザインの今を知る多彩なイベントが 東京ミッドタウンで開催
 約145万人を超える来街者がデザインに触れたエキサイティングな18日間が好評のうちに閉幕

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、2014年10月17日(金)から11月3日(月・祝)まで、デザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」(東京ミッドタウン デザインタッチ 2014)を開催いたしました。8回目を迎えた今年は、「デザインのスイッチ」をテーマに、東京ミッドタウンのガーデン、ショップ、デザイン施設など街全体を舞台に、誰もが日常に潜む様々なデザインに、触れて楽しむことができる、多彩なコンテンツを東京ミッドタウンの全域で実施しました。期間中は今まで最高となる約145万人の来街者が訪れ、盛況の中で幕を閉じました。



▲ 「スワリの森」 座ってあたためるイス/全体の様子



▲「森の学校」 青空教室の様子

今年も東京では10月下旬から11月上旬にかけて、「TOKYO DESIGNERS WEEK」や「ANY TOKYO」をはじめさまざまなデザイン・インテリアイベントが開催されました。六本木エリアは「六本木ヒルズ」の森美術館、「国立新美術館」、東京ミッドタウンの「サントリー美術館」を結ぶ“アート・トライアングル”があり、近年は毎春「六本木アートナイト」が開催され、「夜の街六本木」のイメージから、「デザインとアートの街」として注目が高まっています。

世界に通用するクリエイティブな都市「六本木の新たな価値」の創造に向けて、東京ミッドタウンは開業以来“デザインとアート”へ取り組み、子どもから大人まで、多くの方にデザインを身近に感じていただける多彩なイベントとして、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」を毎年開催しています。まさに東京ミッドタウンを代表するイベントとして、成長し続けてまいりました。

◆日本のデザインの今を知る多彩なイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」

今年の「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」のメインイベントは、広大な芝生広場に、様々なデザインを施したユニークな椅子が並ぶ、「スワリの森」。若手クリエイター古屋遙と、“科学の楽しさ”を伝える創造集団、ガリレオ工房による、科学の不思議と遊べるデザイン性豊かな椅子が多数登場し、お子さまからデザインへの興味を深く持つ方まで、屋外で触れる「デザイン」を楽しまれました。

週末には、「森の学校」青空教室が開校。ピクニックから宇宙との交信まで、トップクリエイターによるバラエティ豊かな特別授業は、受付開始からわずか3日で予約が埋まってしまったクラスもあり、青空のもと多くの受講者で賑わいました。館内では「Salone in Roppongi」で、世界で活躍する吉岡徳仁氏のインスタレーションをご覧いただけたり、1日限りのデザイン・カレッジ「DESIGN TOUCH CONFERENCE」が開催されるなど、現在の日本のデザインについて多角的にご紹介するイベントとなりました。また、21_21 DESIGN SIGHTでの「活動のデザイン展」(2015年2月1日まで開催)、および昨年に引き続き「グッドデザインエキシビション2014」(G展)も同時開催され、多くの方が時代をリードするデザインに触れ、その楽しさに魅了されました。

Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014主なコンテンツ

- ◆ **スワリの森 DESIGN×SCIENCE** 芝生広場に、科学の不思議と遊べるデザイン性豊かな椅子が多数登場し、来場者を楽しませました。
- ◆ **森の学校 by 六本木未来会議** 都心の森に出現した学校では週末はトップクリエイターによる青空教室を開催!
- ◆ **Salone in Roppongi** ミラノサローネで世界を魅了した「日本のデザイン」、吉岡徳仁氏のインスタレーションは美しい憩いのラウンジに。
- ◆ **Tokyo Midtown Award 2014 受賞作品発表・展示** 今年度の受賞作品のほか、商品化された過去の受賞作品も並びました。
- ◆ **MAKE HOUSE—木造住宅の新しい原型展—** 気鋭の建築家7組がこれからの住宅にふさわしい規格寸法や住宅ビジネスの仕組みを提案。

スワリの森 期間:10月17日(金)~11月3日(月・祝)

都会のまん中、緑豊かな芝生広場に登場した「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」のメインコンテンツ「スワリの森」(企画・制作 NHKエデュケーショナル)。新進気鋭のクリエイティブディレクター古屋 遙と、科学の楽しさを伝える創造集団ガリレオ工房が手掛けたアイデア溢れたイスは、ひとつひとつに“科学のふしぎ”を体験できる仕掛けがあり、たくさんの来場者を楽しませました。

広場の中心に置かれたのは、みんなで座りたくなる巨大な「みんなの切り株イス」。ふたりが釣り合いをとらないと座れない「ハートバランス！イス(重心)」、小声で話した声が遠くのイスに座る人に聞こえるしかけの「ヒミツをうちあけたくなるイス(放物線+集音)」、「座ってあたためるイス(伝熱)」など、デザインと科学が結びついて生まれる、たくさんの刺激的で楽しいチェアが揃いました。

また、アーティスト 鈴木 康広、クリエイティブユニットmagma、デザイナー鈴木 啓太、建築家 大西 麻貴 + 百田 有希 / o + h(21_21 DESIGN SIGHT「活動のデザイン展」より特別出展)など、人気のクリエイターたちもゲスト参加。デザインマインドあふれるイスに座ることで、『デザインのスイッチ』を刺激していただける企画となりました。



左 :スワリの森全体像
中央:「水滴のイス」は大きさをシロクマや人間の水分量を表現
右 :地球の「丸さ」を実感できる、日本列島のベンチ。東京の位置に座った時の北海道や九州の傾きを感じられる



▲座ると様々な音が鳴る「音が見えるイス1,2,3」



▲二人で協力しあって座る「ハートバランス！イス」



▲座って筒を覗くといつもの景色が変わる「視点を変えるイス」



▲視覚と“座った感じ”はこんなに違う！「硬そうなのにやわらかいイス」

◆スワリの森 制作記(古屋 遙)

「スワリの森」はデザインを通して、科学の魅力を感じてもらおう試みでした。ガリレオ工房の方々をはじめ皆様と、科学的な発想・または体験的な発想からアイデアをすり合わせて、プレストしながら方向性や制作物を決めました。歴代の科学者達のように、答えを自ら探りに行く姿勢そのものが「科学」の土台にあると感じ、探検の意味を込めて「森」というテーマで空間を作りました。実際にお客さんが好奇心にあふれる表情で次々と座ってくださり、また、科学の仕掛けに気づいた人が周りの人にそれを解説していたり、知らない人同士が協力しあって答えを探るような、思いがけない「対話」が多く生まれていたのが印象的でした。葉っぱのカードも皆さん集めてくださって、ぜひ家に帰った後でも「これも科学なんだよな」と日常の様々な物に対して興味を持てるようなきっかけになっていると嬉しいです。たくさんの笑顔に巡り会えたことがチーム一同本当に嬉しいです。



古屋 遙 / Haruka Furuya
クリエイティブディレクター/演出家

1986年東京生まれ。

ドイツ、イギリスで演劇(空間、映像、音楽、ダンス)の総合演出を経て、広告業界へ。

映像の演出をはじめ、空間・映像・最新テクノロジーを組み合わせた企画演出を行い、ファッションショーの演出や、新しいウィンドウディスプレイの創作など、「魔法的な体験」や「文化創造」に重きを置いた展示やイベントなどを行う。「惑星ハルボリズム」としても活動中。



ガリレオ工房

「科学の楽しさをすべての人に」を合言葉に様々な取り組みを行う創造集団。

NHK/Eテレ「大科学実験」、フジテレビ系ドラマ「ガリレオ」の実験監修なども手掛ける。

「スワリの森」担当は 滝川洋二(東海大学)・稲田大祐(相模女子大学)・RUMIの3人。

森の学校 by 六本木未来会議

図書室 期間:10月17日(金)～11月3日(月・祝)
青空教室 期間:10月25日(土)、26日(日)／11月1日(土)、2日(日)

WEBマガジン「六本木未来会議」で行われたクリエイター同士の対談で、椿昇氏(現代美術家)、長嶋りかこ氏(グラフィックデザイナー)から提案されたアイデアを実現。都心の広大な緑の中で、感受性を育み、デザインのスイッチを押す企画が満載の、「森の学校」を特別開校しました。ふたつの週末に開催された青空教室は、写真家のホンマタカシ氏や絵本作家の荒井良二氏など多彩な「先生」が登場。人気のある講座は予約開始から3日でいっぱいになり、当日も多くのギャラリーが集まりました。



▲ミッドタウン・ガーデンに登場した森の学校。
たくさんの方々に楽しんでいただきました



▲浅葉 克己先生による、手旗を使った
コミュニケーションを学ぶ教室



▲打楽器奏者山口 とも先生による
ガラクタ音楽会



▲黒板と緑に囲まれた空間で
読書や青空教室を楽しんだ参加者たち

青空教室で「思考」についての対話教室を行った服部 滋樹氏が運営するクリエイティブユニット「graf」が手がけた黒板に囲まれた、「森の学校」。都心ながら自然あふれる雰囲気溢れ、来場した方々がのびのびと楽しめる空間となりました。

併設された「森の学校の図書室」は、六本木未来会議に参加した総勢50名のクリエイターが「デザインのスイッチ」を押してくれる一冊を選書。「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」の開催期間中、晴れの日には毎日利用することができ、森の学校の空間や芝生広場で読書を楽しんでいただきました。

Salone in Roppongi (サローネ イン ロッポンギ) 期間:10月17日(金)～10月26日(日)

毎年4月、イタリア・ミラノで開催される、世界最大の国際家具見本市「ミラノサローネ」。「Salone in Roppongi」は、世界中の人々を魅了するこのデザインイベントで活躍する日本人デザイナーや日本企業に焦点を当ててご紹介するイベントです。

今回は、ミラノサローネにおいて長年にわたって活躍し世界中から注目を集める、日本を代表するデザイナー 吉岡 徳仁氏が新作を用いた「SPARKLE LOUNGE」をデザイン。輝くスツールがたくさん置かれた空間で、来場した方々が思い思いに座って楽しみました。

また「ミラノサローネ2014」の現地映像レポートや、注目を集めた日本企業の作品などもご覧いただきました。



▲「SPARKLE LOUNGE」展示の様子と、思い思いに座って楽しむ来街者



▲「ミラノサローネ2014」の現地映像レポートなど
モニターで映像を紹介



吉岡 徳仁 Tokujin Yoshioka

デザインからアート、建築まで、幅広い領域で発表される実験的で革新的なクリエイションは国内外で高く評価され、その作品はデザインの領域を超え、アートとしても世界で高く評価されている。数々の作品は、ニューヨーク近代美術館等の世界の主要美術館で永久所蔵され、世界のデザイン賞を多数受賞。東京都現代美術館「吉岡徳仁ークリスタライズ」を開催したほか、TBS系「情熱大陸」、アメリカ Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100人」にも選出された。イタリアで開催されたミラノサローネで、Kartell社から発表した「SPARKLE」。本企画では、このプリズム効果によって光が屈折し、輝きを放つ、スツールとサイドテーブルのコレクションによるラウンジをデザイン。

Tokyo Midtown Award 2014 受賞作品発表・展示 期間:10月17日(金)~11月9日(日)

東京ミッドタウンの取り組み、「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し世界に発信し続ける街”を目指す一環として、今年で7回目となる「Tokyo Midtown Award」を開催しました。次世代を担うアーティスト・デザイナーとの出会いと応援を目指し、アートコンペ、デザインコンペの2部門を設け、幅広く参加作品を募集。若い才能を応援する登竜門となるアワードを目指し、両コンペとも39歳以下を応募要項として設定しています。結果、今回は、総計1,429件のご応募をいただきました(アートコンペ357件/デザインコンペ1,072件)。

アーティスト、キュレーター、デザイナーなど第一線で活躍する審査員を迎え、厳正なる審査のもと14点の受賞作品を決定し、<アートコンペ>では、小さな生き物が住む、長い時間を経たコンクリートブロックの壁を金属で精巧に表現し「身近な、日々の感動」を示した『群雄割拠』(ぐんゆうかつきょ)、<デザインコンペ>では和柄を表現した金網で、料理のシーンに日本の伝統を感じる提案をした『和網』(わあみ)がグランプリに選出され、10月17日(金)に授賞式が行われました。

また、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」期間中の10月17日(金)~11月3日(月・祝)まで、同会場で一般の方による人気投票を実施。多数の応募により、アートコンペ、デザインコンペの中から下記作品が「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」に輝きました。



▲オーディエンス賞投票の様子

<アートコンペ>テーマ:なし



<グランプリ>

作品名 : 『群雄割拠』(ぐんゆうかつきょ)
受賞者 : 原田 武 (はらだ たけし)



<オーディエンス賞>

作品名 : 『The other』(じ あざー)
受賞者 : 住田 衣里(すみだ えり)

<デザインコンペ>テーマ:和える



<グランプリ>

作品名 : 『和網』(わあみ)
受賞者 : hitoe (ひとえ)



<オーディエンス賞>

作品名 : 『おみく枝』(おみくじ)
受賞者 : 土屋 寛恭(つちやひろやす)

そのほか、2014年度の受賞作品や詳細は「Tokyo Midtown Award」公式サイトでご覧いただけます。
<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/result/2014/index.html>



▲展示の様子



「Tokyo Midtown Award」のデザインコンペは、商品化サポートを行っていることも特長のひとつ。現在デザイナーとして活躍している小島 梢氏が2008年度学生部門準グランプリを受賞した「歌舞伎フェイスパック」は、2013年12月に株式会社一心堂本舗より商品化され、半年で10万セットを完売するほどの人気商品となっております。

この度、この「歌舞伎フェイスパック」が2014年度のグッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞し、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014」の期間中、同時開催した「グッドデザインエキシビジョン2014」(G展)で展示されました。

MAKE HOUSE 一木造住宅の新しい原型展— 期間:10月17日(金)~10月26日(日)

場所:コートヤード

気鋭の建築家7組が、「パーツ化」というコンセプトに沿って、これからの住宅にふさわしい規格寸法の考え方から、今後の住宅ビジネスの仕組みまでを含めた提案を展示しました。

NCN社が開発した、骨造やRC造に用いられるラーメン構法を木造住宅に取り入れた「SE構法」を用い、住宅部材の「パーツ化」に取り組み、その「パーツ化」が可能にする木の家の新しいつくり方を提案したものの。

会場では、鈴野 浩一さん・禿 真哉さん(トラフ建築設計事務所)の「開かれた家」、谷尻 誠さんの「高床の低い家」、長坂 常さんの「つくる家」、中山 英之さんの「大中小の家」、藤村 龍至さんの「柱と梁(はり)の家」、藤原 徹平さんの「内と外の家」、吉村 靖孝さんの「アプリの家」が展示され、新たな住宅のかたちに多くの来場者が興味深く見入っていました。



▲開催期間中のようす

マツダデザイン展示 期間:10月17日(金)~10月26日(日)

場所: キャンピアー・スクエア

今回で「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」での展示が3回目を迎えたマツダの展示。「人の心を強く揺り動かす美しいものを追求したい」。マツダは、この想いからクルマをアートや芸術を生み出すという発想でデザインしています。

新型デミオに加えて魂動オブジェなど、マツダのデザインを手がける様々な人の手で丹精を込めて生み出された作品(クルマ)を展示。「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」に、2013、2014年と2年連続でトップ3選出を果たしたマツダのデザイン哲学を体感できる内容で、自動車ファンはもちろん、一般来場者もクレイモデル造形体験会に参加するなど、多くの方々を魅了しました。



▲開催期間中のようす

その他のイベント 開催の様子

デザインのスイッチ:これからのライフスタイル展 期間:10月17日(金)~11月4日(火)

場所: ガレリアB1F/ガレリア3F渡り廊下/ガレリア3Fサントリー美術館横

世界各地から集めたこだわりのアイテムを扱う東京ミッドタウン各ショップが、日々の暮らしを“ちょっと豊かに”する商品を展示しました。「グッドデザイン賞」を受賞した日本の名品や、日本の伝統工芸品で長く愛されているものなど、日用品や、家具、ライフスタイル雑貨など、生活が楽しくなる逸品が揃い、館内各所で来街者の目を楽しませました。



▲館内のさまざまな場所で、キッチン雑貨、おもちゃ、インテリアなどを展示

DESIGN TOUCH CONFERENCE(デザインタッチ・カンファレンス) 期間: 10月26日(日)

場所: 東京ミッドタウン・カンファレンス

講師: 鈴木 康広、山懸 良和、原 研哉、吉岡 徳仁、WOW(鹿野 護、丸山 紗綾香) ほかに敬称省略 順不同

第一線で活躍するクリエイターが集結する、1日限りの夢のデザインスクールが開講。熱心に講義を聴く人で会場はいっぱいとなりました。



▲開催のようす

INADA Stone Exhibition —Earth & Craft Park— 期間:10月17日(金)~11月3日(月・祝)

場所: ミッドタウン・ガーデン他

日本の伝統工芸と日本を代表するクリエイターによる、人気のコラボレーション企画。せせらぎが心地いい遊歩道をステージに繰り広げられた、茨城の最高級石材、稲田御影石で作られたモニュメントや、笠間焼を「湯たんぽ」にデザインするなど、いつもの遊歩道が楽しくなるような意外でユニークな作品が数多く並びました。



▲左から稲田御影石を使った松永 真氏、平野 遼太郎氏、永井 一史氏作品

▲小川に並んだ作品群

▲湯たんぽをイメージした笠間焼
中川 憲造氏作品

映像インスタレーション by WOW / Presented by Smart Canvas 期間:10月17日(金)~11月3日(月・祝)

場所: プラザB1F メトロアベニュー

時を感じ、時を楽しむという「時感旅行」をコンセプトとして開発され、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2010」にセイコーエプソンから出品されたEPD Wrist Wear「Smart Canvas(スマートキャンバス)」。そのコンセプトモデルの一つであった、ヴィジュアル・デザイン・スタジオWOWが制作した「工場と遊園地」が市販化された事を記念して、WOW制作によるスマートキャンバスをモチーフにした映像インスタレーションの展示を行いました。



▲開催期間中のようす

同時開催イベント

GOOD DESIGN EXHIBITION 2014(G展) 期間:10月31日(金)~11月4日(火)

場所:東京ミッドタウン内各所
主催:公益財団法人日本デザイン振興会

1957年の創設から、暮らしはもちろん社会全体を豊かにする「よいデザイン」を讃え続けてきたグッドデザイン賞。最新の全受賞作品が展示されるグッドデザイン賞の受賞展「グッドデザインエキシビション2014」(G展)。国内をはじめアジア各地などからの来場者も多い、日本を代表するデザインイベントとして知られる本展は、今年も東京ミッドタウンで開催され、約23万人以上の方が来場しました。

2014年度受賞のさまざまなジャンルのデザインを紹介したほか、企業やデザイン分野の学校によるデザインをテーマにした展示が行われました。



▲開催期間中のようす



グッドデザイン賞受賞展
2014.10.31 FRI → 11.4 TUE



展

「活動のデザイン」展 期間:10月24日(金)~2015年2月1日(日) 火曜日休館

場所:21_21 DESIGN SIGHT
主催:21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

SNSの普及も相まって、地球上の各地で起きている問題を近くに感じる昨今。21_21 DESIGN SIGHTでは、社会が抱える課題とデザインの接点をテーマに、「活動のデザイン展」を開催します。触れられるものづくりにあえて限定せず、社会が抱える課題を読み解き、問題を解決しようとする意志や活動を紹介します。



「高野山開創1200年記念 高野山の名宝」展 期間:10月11日(土)~12月7日(日) 火曜日休館

場所:サントリー美術館
主催:サントリー美術館、高野山真言宗総本山金剛峯寺、高野山文化財保存会、読売新聞社

弘法大師空海が開山し、比叡山に並ぶ仏教の聖地と言われる高野山。サントリー美術館では、この高野山が来年2015年に開創1200年を迎えることを記念して、至宝の数々を公開いたします。「山の正倉院」とも例えられる文化財の数々を東京で見られる、またとない機会です。



国宝 制多伽童子像(八大童子像のうち)
運慶作 鎌倉時代 12世紀 金剛峯寺蔵



東京ミッドタウン
デザイン&プロモーション担当
井上 ルミ子

【Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2014 担当者コメント】

8回目を迎えた今回のDESIGN TOUCH。総勢60組のクリエイターが参加し、同時開催イベントを含めると、期間中全15プログラムを展開しました。デザインをより広義に捉え、インスタレーションだけに留まらず、参加型、講義型のイベントも幅広く取り入れ、18日間の会期中、日本内外の最新のデザインに身近に触れていただける機会を提供することができました。

今後も引き続き、「デザイン&アート」の街として情報発信の基軸となり、東京のデザインウィーク期間を代表するコンテンツとなるべく、イベントを進化させていきます。